

環境単位に階層性を与える建築設計

多重なスケールで共同体を構築する形式の提案

本修士設計では、都市と住宅という二極化した環境に対して階層性を与えた建築形式とすることで、段階的なスケールで集合体を形成し、多重な単位を構築することを目的とする。そこで集まることの価値を現代的に再解釈し、街での暮らしを提案する。

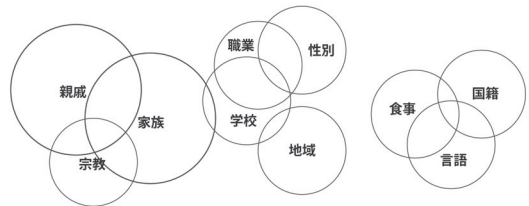
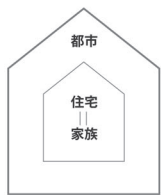
松本乙希
Matsumoto Itsuki



1. 背景と目的

血縁関係を越えた繋がりをもつ集住形式

現代においては、住宅という住環境の発明により、生活スタイルがパッケージ化されたことで、サラリーマンの1世帯家族を単位に設定され、住宅と家族が1対1対応している。それによりかつての暮らしが都市の延長線にあるような形式ではなくなりました。そこで環境と単位が1対1で構成されるのではなく、もっと重層的な比率を構築することで、より様々な帰属意識に対しておらかに受け止めることのできる建築が可能となるのではないかと考える。



2. 都市環境での調査研究

画一化された環境単位

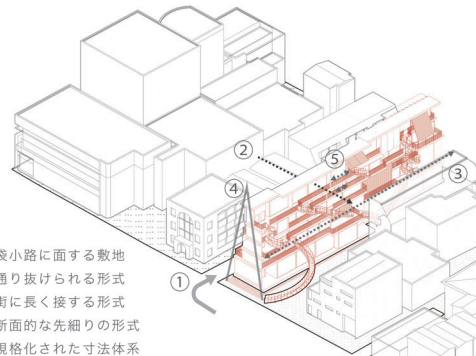
同一形状の多様な建築はパズルのように連結を繰り返し都市を形成する。方形の中庭がフラクタルに展開され、中庭の階層が多層になることで多数の庭が一つの庭の象徴性を強く示し、一つの庭が多数の庭をまとまりとして認識づける。またそれらの濃淡によって信仰の濃度が生まれている。よってカスタムや家族構成、職業などの多様なスケールの帰属意識を街の形式によって許容し、柔軟にコントロールしていると考えられる。



3. 設計手法

大久保独自の建築システム

大久保の階層的な都市構造をフラクタルに展開し、新たな建築形式を構築する。そのシステムは以下の条件や手法により可能とする。



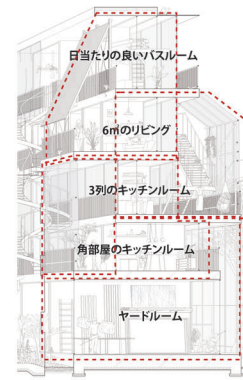
1. 袋小路に面する敷地
2. 通り抜けられる形式
3. 街に長く接する形式
4. 断面的な先細りの形式
5. 規格化された寸法体系

4. 新たな環境単位

まちの部屋を賃貸する

このような生活からカプセルホテルのように暮らしたり、外階段が私有化し、メソネット住宅のように暮らす人が発生する。これによりホテルのような日雇しの短期滞在から集合住宅のような長期滞在も可能な環境となることで、住人の価値観や使い方に制限をかけず多様な暮らしが展開される。

多重に干渉する暮らしの単位



0. 背景

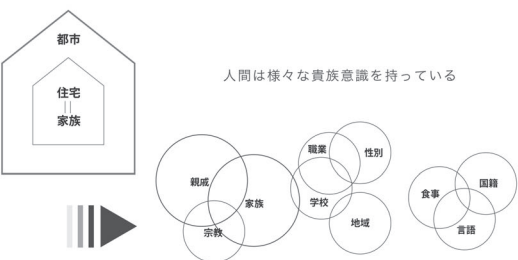
ばらばらとまとまりの状態



私の好きな風景のひとつにハロン湾がある。この風景は島々が「ばらばら」でありながら、船の往来や人間の営みによって「まとまり」がある状態であり、興味を持った。このような状態はそれぞれが個性豊かであり、時として壮大な環境を作り出す。そこでおほかた多様なまとまりを認識できる環境を構築していきたい。

1. 環境単位

多様な場と多様な共同体



人間は様々な貴族意識を持っている

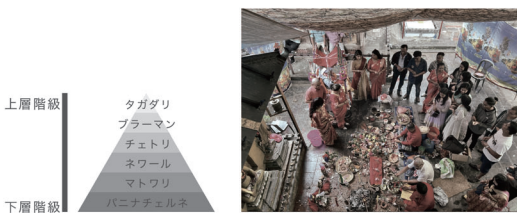
現代では暮らしを形成する基礎単位が家族から個人へと移行しつつあり、新たな共同体へと変容する転機を迎えている。そこである一定のまとまりを示す「単位」という言葉に興味を持った。先行事例として北山恒氏が「ある環境における人間の集合単位について」「都市の社会環境単位」と提唱しており、本計画では現代における環境単位を提案する。

2. 都市環境でのリサーチ

柔らかく多様な単位を受け止める都市構造



ネパール・カトマンズ・バタン集落
ネパール・カトマンズ盆地のバタンの集落を対象とし調査を行った。バタンは多くの伝説を含むいくつかの歴史的记录によれば、バタンはカトマンズ盆地で一番古い都市であるとされている。その街には航空写真で街の平面を見てみると無数の穴が空いていることがわかる。この形式を解き明かすことでバタンの独自の環境単位が解明できるのではないかと考えた。



ネパール仏教・釈迦族
バタンは古くからネパール仏教信仰が根づく地域となっており、釈迦族という血縁関係を超えた住人構成を持っている。カースト制度が残るネパールでは、サキヤ・カーストという職人たちが存在している。このサキヤ・カーストは仏像や彫刻を彫ることを生業としていた。カースト制度は、単位を強くしていく強制力のあるものであると思った。

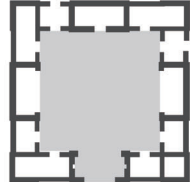
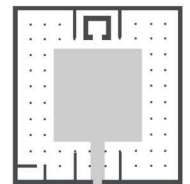
ナニ・バハル：中庭に面する住宅形式
ナニ・バハルは単一または複数の氏族の住む数軒の住戸で構成される中庭を中心とした共同体の形式。



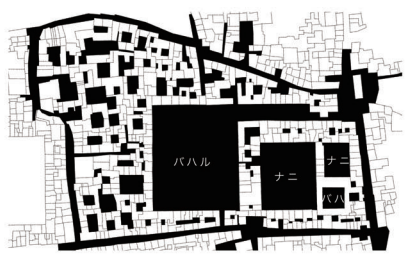
バヒ：副僧院
仏教関連施設の「バヒ」は出家僧侶のサンガが運営し市街地の高層に建てられることが多く仏教学を学ぶ出家僧侶たちの専用居住の場であったと考えられている。



バハ：主僧院
バハは在家僧侶のサンガが運営し市街地に所在することが多い。バタンではゴールデンテンプルと呼ばれる寺が有るで、タワバハとも呼ぶ。



バタン旧市街地と環境単位の濃度
かつての旧市街地は「トル」と言った町を単位単位がある。バタンの特徴であった中庭の形式は、市内にフラクタルに展開されているものの、その周縁部になると王宮を始めた形式が徐々に崩れかかっていることがわかる。中心からの物理的な距離とともに信仰の濃度も変化しているように感じられる。そのため形式のフラクタル的に展開する手法は、階層性を与える手法として明快な境界を作らず、柔らかい共同体を作っていると分析した。



フラクタルな都市構造
多様な建築はパズルのように連結を繰り返し都市を形成する。方形の中庭がフラクタルに展開されると中心が多数になり、強い求心力が緩和した。その構成として中庭配列のヒエラルキーとして中央に大きな「バハル」が配置され、「バハ」や「ナニ」などがそれを取り囲む。その構造によって柔軟に単位がコントロールされていると考えた。

4-1. 多国籍化する大久保

多様な単位



多様な交錯を見せる街
新宿区大久保では、マジョリティにあたる韓国人と日本人観光客とマイノリティにあたる多国籍の人種で交錯している。しかし混沌な環境の中でも同じ人種や宗教、言語同士のヒトやモノが集合し、秩序があるように感じる。

4-2. 階層的な都市構造

奥行きを持った環境



街の末端
これまで細街路によって国籍の棲み分けを行ってきた。次のフェーズとして袋小路の道が街区に侵食してきている。しかしその道は単なる通過動線のほかに不法投棄の場となっている。つまり街の末端にはものが集まる性質があり、街のコアの空間性を持つかもしれない。

4-3. 都市構造と乖離する建築形式

柔らかい単位を妨げる袋小路と住宅形式

ハナールショップ
イスラム風で建てられた店舗。機能にはイスラム風だが、外観は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。

モスク
モスクは多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。

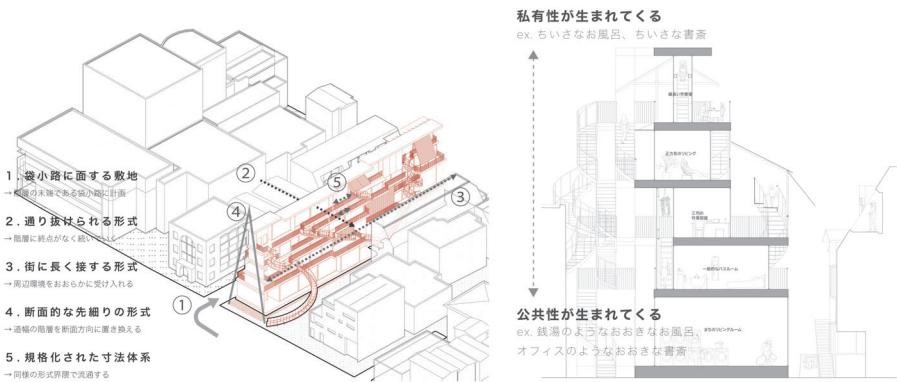
商店街
商店街は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。

住居
住居は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。店舗は多国籍な人種が住む街に似ている。

日本や韓国をはじめとする店舗
生活圏（商業）
生活圏（バックヤード）
住居圏
住宅

5. 大久保の新たな建築システム

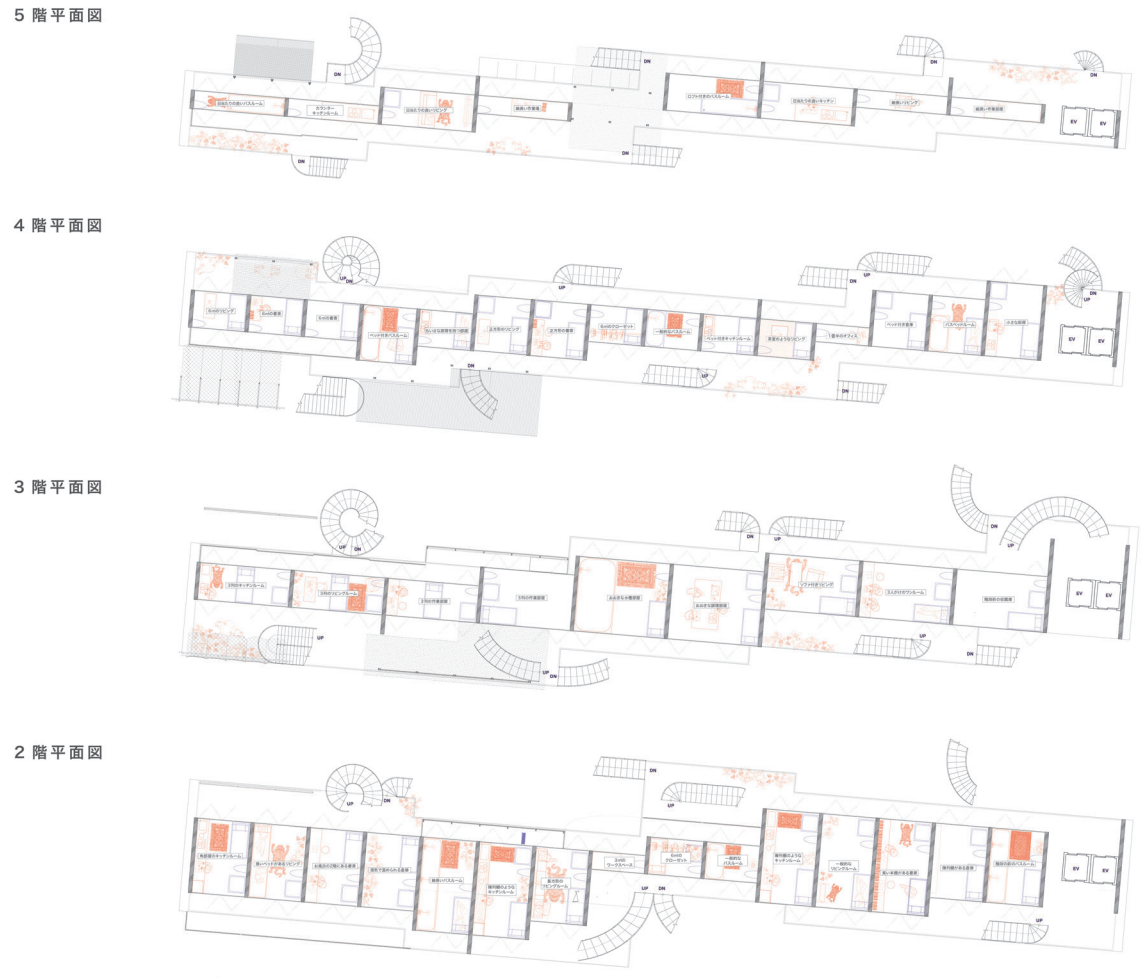
階層性を建築システムへ応用



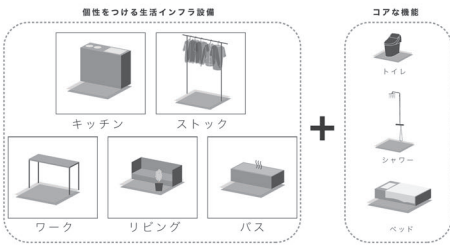
都市構造をフラクタルに展開する形式
階層的な都市構造を継承する形式で建築を構築していく。初めて都市構造の中で階層の末端に当たる袋小路は、行き止まりになってしまうことから、行き来できるような形式として、通り抜けができる部屋を考えた。それにより部屋が都市構造の一部になり、街と一体的になる。また断面方向を1mずつ細くしていくことで、都市のヒエラルキーを踏襲し、下層ではこう床面積とともに公共的な利用も可能となり、上層に向かい床面積が細小していくことから私有性が高くなる構造となっていく。

9. 階層的な平面構成

ばらばらとまとまりの状態

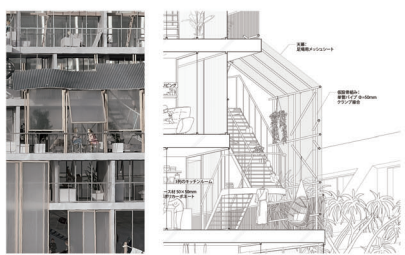


6. 1部屋 = 1生活インフラ設備



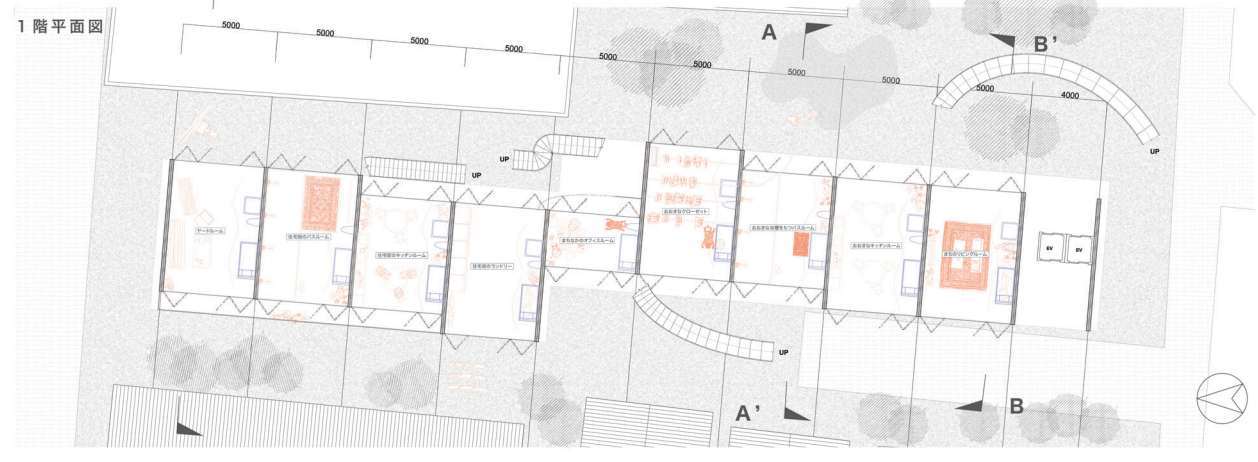
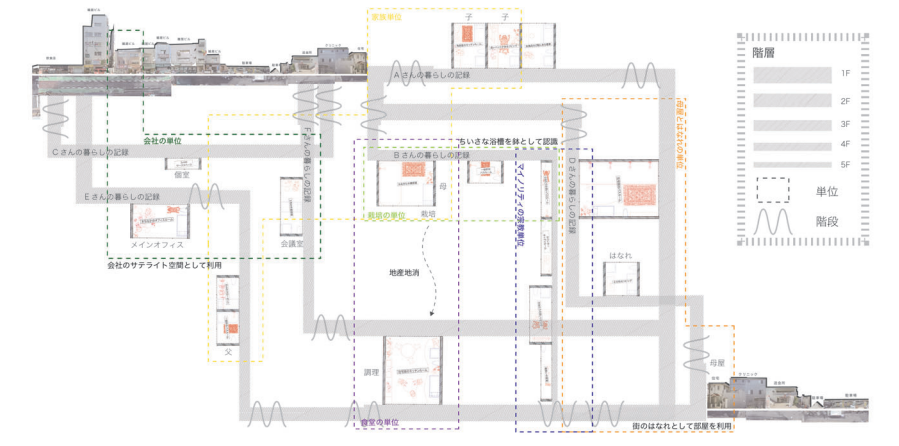
個性的な部屋
それぞれの部屋を1機能で特化する。それにより部屋を借りる目的が多様であっても賃貸であることを生かして柔軟な借り方によって生活暮らしを充足していく。

7. 即物的な建築



8. 大久保の暮らしの単位

街で暮らしを補充する





街の部屋を「借りる」
 ここに暮らす人はマイノリティーの人が主になる。彼らにとって内部化された生活インフラされた設備は、住環境だけでなく職の場など様々な場として「見立て」を行っていく。また小さな部屋が多いことから1部屋を賃貸すれば、カプセルホテルのように暮らしたり、断片的な2部屋を賃貸すれば、外階段が私有化しメソネット住宅のように暮らす人が発生する。これによりホテルのような日貸しの短期滞在から集合住宅のような長期滞在も可能な環境となることで、住人の価値観や使い方に制限をかけず多様な暮らしが展開される。

街の部屋という考え方により集合住宅を超えた新たな環境単位が構築できると期待する。

